

総括研究報告書

1. 研究開発課題名： 高齢者の摂食嚥下・栄養に関する地域包括的ケアについての研究
2. 研究開発代表者： 戸原玄
3. 研究開発の成果

本邦では高齢者の摂食嚥下・栄養に関する問題への対応は喫緊の課題である。リスクを有する者に対して多職種が連携して支援に取り組んでいる地域はいくつか散見されるが、地域の人材等有効資源が効果的に繋がっていない地域は多い。摂食嚥下に関する医療介護の有効資源調査はこれまでもいくつか行われているが全国規模での調査は行われていない。

本研究では住み慣れた生活の場でできるだけ自立を続けたまま、摂食嚥下に関して有効な支援を受けられる地域作りの足がかりとして、啓発を含めたアンケート調査と医療介護資源の明示化、モデルとなる有効な連携事例の調査から、広報と実働を兼ねた啓発、教育活動を行うこととした。つまり情報提供を行うだけではなく、実際に地域の人材資源を動かし繋ぐことを目標とした。各調査は最終年度に向けて互いに関連を持たせ、有機的に連携して研究を進めていくよう計画、構成した。

本研究の目的は、高齢者の摂食嚥下・栄養に関する問題に対応できる地域資源を明らかにしてマッピングし、行政や病院、関連施設の啓発を行い、有効連携事例モデルを提示して、連携が十分でない地域に新たな連携を構築し実践させることである。より具体的には、本年度公開に至った摂食嚥下関連医療資源マップは連携を推進するための“材料”で、現在作成中である連携ガイドブックは“設計図例”となる。また実態調査的な複数のアンケートは我々の研究班の方向性を明らかにするための指針となる。

尚、当該研究においては地域をつなぐことが目的であり、患者データをとる性格のものではないが、東京医科歯科大学歯学部倫理審査委員会の審査を受けたところ、倫理審査不要との通知を受けて進めている（受付番号 1168 番）。

結果を列記する。

まず摂食嚥下関連医療資源マップのサイト (<http://www.swallowing.link/>) を作成し 2015 年 9 月 15 日に公開した。2016 年 1 月 14 日現在で登録施設数は 1099 件を超え、公開後の周知は想定をはるかに上回っている。日本摂食嚥下リハ学会でのシンポジウムを皮切りとして大手三社を含めて新聞記事 7 誌、NHK での放送、複数の関連学会や家族会の HP での周知、数十の医療介護関連サイトでの情報公開がなされ、地方紙での公開は現在も引き続けている。また 2016 年 1 月 14 日現在、サイトの view 数は 134015 件、ユーザー数は 21668 名であった。

また、連携ガイドブック作成を進め上記のサイトにアップした。当初は郵送での配布を考えていたが周知活動は十分と考えられたため郵送は行わない。以上は遅延なく十分に進めることができた。

進捗に一部遅延が生じたが医療と介護の連携の実態調査として、本年度特養に対して調査を行った。ここでは摂食嚥下への対応が必要な患者をつなぐ先がないのにも関わらず紹介先が不要であるとの返答が約半数存在することが分かった。これらから来年度の研修会に盛り込むべき連携の障壁を抽出することができた。

その他、先進事例的に江戸川区内での地域連携をサポートすることも本研究班で行った。さらに、行政・保健所に対する現状の取り組みについてのアンケート調査の結果から都道府県内の区市町村で摂食嚥下機能支援に関する事業を行っているところの把握がされているのは 3 割に過ぎないため、摂食嚥下機能支援について都道府県と自治体の情報共有は十分とはいえないことなどが分かった。遅延は生じたが年度を持ち越さずに課題を達成できた。

また、新宿区が行った軽度摂食嚥下障害者に対する検診表を用いて、千葉県八千代市にて検診を行うこ

とができたため3年目の作業を含め終了した。

概ね初年度の調査は目的としていた結果が得られた。ただし、一部調査の実施が遅れたものについても年度内に課題を達成することができた。